

公益財団法人日本宇宙少年団
平成25年度第2回理事会議事録

1. 開催日時 平成25年10月15日(火) 14:07~17:07
2. 開催場所 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア503会議室
3. 理事総数及び定足数
4. 出席理事数 4名
総数 7名、定足数4名
(本人出席) 稲田伊彦、麻生茂、鍛冶壮一、的川泰宣(名簿順)
(欠席) 松本晟、井村洋、栢森秀行
(監事出席) 清水眞金、棚橋秀行
5. 議案
審議事項
第1号議案 事務局体制の変更について(資料No.1)
報告事項
(1) 平成25年度事業の実施状況について(資料No.2)
(2) 平成25年度財団運営状況について(資料No.3)
(3) 団員及び分団の状況について(資料No.4)
6. その他
(1) 団員及び賛助団員の会費について(資料No.5)
(2) 連携団体長会議の開催及び財団からの報告について(資料No.6)
(3) 活動委員会からの中間報告について(資料No.7)
(4) その他
7. 議事の経過及びその結果
 - (1) 出席者及び定足数の確認
冒頭で稲田専務理事から本会議の出席者と定足数の充足を確認した。
 - (2) 議長及び議事進行
本日、松本理事長欠席のため、理事会運営規則(理事会の議長)第6条第2項に基づき、稲田専務理事が議長を務め議事進行を行った。
 - (3) 前回議事録の確認
稲田専務理事より、すでに発送済みである平成25年度第1回公益財団法人日本宇宙少年団理事会の議事録について、意見を求めたところ、異議なく承認された。
 - (4) 議案の審議及び決議事項の結果等
第1号議案 事務局体制の変更について
稲田専務理事より、資料No.1に基づき、秋山深雪氏を事務局長に迎えた10月以降の新事務局体制について、説明を行った。

稲田専務理事から第1号議案について諮ったところ、次の意見があった。

棚橋監事より、事務局であっても就任者の略歴書を添付するようご指摘があり、また、事務局長の報酬は無報酬であるか、質問があった。
稲田専務理事より、事務局長は無報酬である旨、説明があり、秋山氏の略歴書は次回理事会で添付することを条件とし、本件について諮ったところ、全員一致で可決した。

8. 報告事項

(1) 平成25年度事業の実施状況について

秋山事務局長より、資料No.2に基づき、25年度事業の実施状況について、第1及び第2四半期の説明と今後の計画している事業について説明を行った。

鍛冶理事より、団員管理システムにどのような問題があるのか、という質問があった。

これに対し、秋山事務局長より、現在の管理システムはトラブルがあっても簡単に改定できないという問題があり、どのような対処案があるか、只今事務局で検討中である旨、説明を行った。

棚橋監事より、誰が決定して、実施したのかが不明確なため、事業計画で認められたもの以外の事業は、決定者、目的や収支計画を予め理事会が把握しておく必要がある旨、意見があった。

清水監事より、専務理事の専権でその他事項とし付け加えればよいのではないかと。つまり、大きなテーマ（例えば宇宙飛行士参加事業）のうち、事前かつ具体的にわかっているものは計画に入れ、途中で出来てきたものに対しては、大きなテーマの中で弾力的に対応し、速やかに報告すればよいと思う旨、意見があった。

麻生理事より、せっかく理事会メーリングリストがあるので、急な事案についてもメールで変更を知らせ、何もなければ承認という形のやり方で良いのではないかと、との意見があった。また、事業の報告とともに事業毎別も収支報告もお願いしたい旨、意見があった。

これに対し、秋山事務局長より、今のご指摘とご意見を踏まえ、今後は主要な事業に関しては、少なくとも理事会のメンバーにメール等でお知らせし、了承を得ることとしたい。

また、次年度の事業計画においては、大項目の下で主旨に合うような事業を枝番の形にして実行させていただき、適宜中間実施状況のような形で四半期に一度、進捗をお知らせするようにしたい旨、説明を行った。

(2) 平成25年度財団運営状況について

秋山事務局長より、資料No.3に基づき、平成25年度財団運営状況について、8月末現在の決算状況について説明を行った。

稲田専務理事より、本件について意見等を求めたところ、次の質疑応答があった。

棚橋監事より、団員の年会費について、現在団員は何人おり何%収入が入ってきているのか、それから、賛助会費は前年度と比べ今年ほどのくらいなのか、請求書を送っているのかを教えて欲しい旨、質問があった。

これに対し、秋山事務局長より、団員の年会費については、現在の登録者は約2800名である。YAC年会費は1年毎の支払いであり、資料P4をご覧くださいと8月末現在では、団員年会費が344万円、年会費3000円なので1150人くらいとなる。まだ5ヶ月の段階ではこんなものではないだろうか。

また、賛助会費についてもどこの企業も第4四半期の入金が多く、これから入金という会社が多い旨、説明を行った。

また、専務理事からも、既に請求書は送付済みであり、企業によっては前期よりも後期に支払うケースが多い旨、補足があった。

棚橋監事より、見込みの490万円に対して約90万円とはかなり少ないと思うので、もっ

と積極的に催促して上期にもらえるよう年度初めに請求すべきである旨、意見があった。また、現在のように航空宇宙関連産業のみならず新しい業界においても賛助会員を獲得する努力を、理事全員を含めてする必要があるという発言があった。

秋山事務局長より、御趣旨を踏まえ、賛助企業と今後折衝していきたい旨、説明を行った。

(3) 団員及び分団の状況について

秋山事務局長より、資料No.4に基づき、9月25日時点での団員及び分団の状況について、説明を行った。

また、先日、花巻分団と手賀沼カップ分団が設立したので、現在分団数は143分団となった旨の説明があった。

9. その他

(1) 団員及び賛助団員の会費について

秋山事務局長より、資料No.5の内容については、皆様にご議論、ご検討をお願いしたいとして、資料の説明があり、事務局としては寄付金的な整理ではないか、との説明があった。

的川理事より、実際質を決めるのはリーダーなので、リーダーがどういう人たちが揃っているかがYACの要素になる。連携団体長会議の場で今の寄付金のことについて、どういう性質のお金なのか、YACはどのような組織なのか、という議論を一緒に積み重ねていくことが評議員会の準備になるのではないかと、この発言があった。

秋山事務局長より、本件は評議員会の承認事項になるので、他法人の例を調査した上で、3月の理事会、評議員会でお諮りする予定である旨、説明を行った。

稲田専務理事より、この部分についてはゆっくり浸透させ、あらゆる場合には話を重ねていく。基本的には、理事会で議論いただいた方向で次のステップに進めてもらいたい旨、発言があった。

麻生理事から、前回の日本宇宙少年団連携団体長会議では財政的な理由に訴えてリーダーの会費徴収をお願いしたにもかかわらず、依然事務局から会費徴収の連絡が行われていないので、困惑しているリーダーがいるので、速やかに状況を整理して会費徴収の案内を行ってほしい、また今度の日本宇宙少年団連携団体長会議にて説明をしてほしいという発言があった。

事務局長より、会費徴収のためのシステムの複雑さのためにその手続きが遅れてしまっていることから、次回連携団体長会議において説明することにしたい旨の発言があった。

(2) 連携団体長会議の開催及び財団からの報告について

麻生理事より、資料No.7に基づき、2日間行う連携団体長会議全体の説明があった。

秋山事務局長より、連携団体長会議における財団からの報告は、本理事会資料No.4の団員数・分団数の報告、そして、資料No.3公益財団法人の業務運営状況を説明する予定である旨、説明を行った。

(3) 活動委員会からの中間報告について

麻生理事より、資料No.7に基づき、活動委員会の今年度行ってきた活動の中間報告を行った。また、活動委員会からのお願いについては、下記のようになった。

① 前回理事会に活動委員会から提案があった2014年、2015年度全体活動プログラムとして“もし私が宇宙へ行けたらやってみたいこと”（小学生）、“もしも私が宇宙に行って仕事をするなら”（小中高校生）を行うことが了承された。なお、現在申請している全体活動プログラムとしては、2014年度特定目的事業積立金子ども宇宙ワークショップ（予算800万円）、2015年度特定目的事業積立金YAC30周年記念事業（予算800万円）を掲げているので、その中にこれらの内容を取り込んでいくことになるので、2014年度、2015年度の全体活動プログラムの大枠を急いで固める必要があることが活動委員会で申し合わされた。これらの内容を2014年度から始めるためには、各連携団体の2014年度活動計画に盛り込んでもらう必要があり、今から準備をしないと間に合わないという説明があった。

② 第3回 衛星データコンテスト（予算10万円）について

第2回衛星データコンテストについては第1回と比べ応募件数は少なくなったが、レベルが格段に上がっていること、また、前回の理事会で棚橋監事からこのコンテストに用途を特定した寄附金（10万円）をYACに賜っているのでは是非実施させたいとの要望があり、了承された。

また、これにともない、11月の連携団体長会議の旅費をはじめ、2014年度の特定目的事業積立金子ども宇宙ワークショップ（800万円）の具体的な活動プログラムを活動委員会で検討する上で、会合旅費等の経費が発生するところを、この800万円からの支出として認めてもらいたい旨、説明があった。

秋山事務局長より、特定目的積立金を用いる事業については、理事会及び評議員会に諮らなければならない内容だと思うので、活動委員会の旅費や活動準備資金については、今年度の事業経費として財団からの支出とさせていただきたい旨、説明があった。

これに対し、理事会は一致して、財政状況を見つつ、当面の活動委員会活動の旅費を支出することが了承された。

以上をもって議案の審議、報告事項等を終了し、17時07分に終了した。

この議事録が正確であることを証するため、出席した専務理事及び監事は以下に記名押印する。

以上

平成25年10月15日（火）

専務理事
稲田 伊彦

監事
清水 眞金

監事
棚橋 秀行